

## 自由な発想に向けて

客員教授 立花 希一

言葉は皆さんや私が作ったものではありません。われわれは、言葉がすでに使われている社会に生まれました。これが犬だとか猫だとか、机だとかイスだとかと習いました。誰かが猫を犬と呼んだり、机をイスと呼んだりしたら、間違っていると注意することでしょう。これがいわゆる常識です。

「クジラは魚ですか」と尋ねられたら、皆さん全員が、「ノー」と答えるでしょう。クジラは、魚のように卵を産まないし、うろこもない。えら呼吸ではなく肺で呼吸するから、クジラの潮吹きとって、時々、海上に現れて息をしなければならぬ。だから、クジラは哺乳類に決まっている。こんな事実を知らないようでは放送大学の一員として恥ずかしいと思う人もいるかもしれません。

このように考える人は、本質主義というアリストテレス以来の伝統的な定義、分類の考え方に染まっています。定義や分類は、事物の本質を正しく記述することであり、絶対に正しいものがある。クジラは哺乳類であって、それ以外ではありえない。哺乳類以外の定義や分類は間違っているというわけです。しかしながら、この考え方に異を唱える人たちが、特に19世紀以後、出現しました。われわれはその後の世代に属しています。ポアンカレは、『科学と仮説』で、定義は「人間の自由な創造物だ」と言っています。この定義の考え方を約束主義と言います。約束主義の明瞭な例に、「命名」があります。私の名前は「希一」ですが、希望で一杯なのが私の本質だから、「希一」というのでしょうか。否です。両親が自由にそう決めただけです。

もしわれわれが、海に住む生き物を「魚」と呼ぶことに決めれば、クジラは、論理的に、魚だということになります。クジラが哺乳類だというのは、生物学的な定義、分類に過ぎません。漁師は、網にかかった生物を哺乳類だとか魚類だとか、甲殻類だとかに分類しますか。かれらにとっては、先ず、毒があるかないか、次に、おいしいかまずいか、高いか安いかでしよう。捕った生物を、高級料理店に売するための箱とそうでない箱などに分けて入れるのではないのでしょうか。分類、定義が適切かどうかは目的によります。漁師にとって、学校で正解だと習った生物学的分類はあまり意味がありません。

言葉は、小さいときから教え込まれ、倣い覚えて使えるようになるので、そのようにして習得した言葉を、われわれは固定した絶対的なものだと思込みがちです。でも、実はそうではありません。当然だ、常識だ、正解だという思込みを打破し、改善を試みることで、人間は進歩します。普段、当たり前のように使っている言葉を見直し、新しい分類、定義を考えてみることによって、自由な発想や創造が生まれるかもしれません。些細な例ですが、机としてもイスとしても使える新しい家具を考案し、「ツイス」と名づけてもいいのです。思考を柔軟にして、新しいものの見方に挑戦していただければと思います。